

The 57th Annual Meeting of The Japanese Society of Constitutional Medicine

第57回 日本体質医学会総会

プログラム・講演要旨



日時 2007年 **9月29日** **土**・**30日** **日**

会場 **大分県労働福祉会館 ソレイユ**

会長 **吉松 博信**

大分大学医学部生体分子構造機能制御講座（第一内科）教授

第57回日本体質医学会総会の開催にあたって

大分大学医学部
生体分子構造機能制御講座(第一内科)教授

会長 吉松 博信

この度第57回日本体質医学会を、平成19年9月29日(土)、30日(日)に大分で開催させていただくことになりました。伝統ある本学会のお世話をさせていただくことを大変光栄に存じます。

この数年、メタボリックシンドロームという言葉は医学界のみならず一般社会に広く浸透してきています。その病態は近年かなり解析が進み、単に内分泌代謝領域だけでなく、循環器や腎臓、肝臓など幅広い領域において総合的な理解が必要となっています。その意味で、体質医学からのアプローチが重要な疾患と考えられます。

シンポジウム1では、循環器・代謝内分泌の基礎・臨床の立場から、『血管病』をキーワードとしてメタボリックシンドロームの病態について、シンポジウム2では、体質医学からみたメタボリックシンドロームの臨床的なアプローチ法についてご討議頂くこととしております。

また消化器疾患や、骨粗鬆症、免疫・アレルギー疾患などの疾患についてもその体質医学的側面について、各領域の著明な先生方に特別講演や教育講演をお願いしております。受講された皆様に有意義な講演になるものと確信しております。多数の方々のご参加をお待ち申し上げます。

最後になりましたが、お忙しい中、また遠方よりご発表頂きます各演者の先生方と座長の先生方に心よりお礼申し上げます。

第57回日本体質医学会総会 開催要項

1 日 時

平成19年9月29日(土)、30日(日)
両日ともAM9時から受付開始します。

2 会 場

大分県労働福祉会館ソレイユ
〒870-0035 大分市中央町4丁目2番5号
6階 つばき
7階 カトレア (総合受付)

3 参加費

会員5,000円、非会員2,000円、学生無料
本会受講により、下記の単位が取得できます。

- 日本医師会生涯教育単位認定3単位
- 日本病態栄養学会認定病態栄養専門師3単位
- 健康運動指導士及び健康運動実践指導者登録更新0.4単位
- 大分県糖尿病療養指導士認定取得3単位

4 発表形式

講演はすべてPCとしています。

一般演題：事前にCD-Rもしくは添付ファイルにて事務局までお送り下さい。詳細は個別に御連絡致します。

特別講演、シンポジウム等：事務局より直接御連絡致します。

発表データのバックアップをCD-R又はUSBメモリーにて御持参下さい。

演者の方は発表30分前までに受付を済ませて下さい。

5 学会関連行事

理 事 会：平成19年9月28日(金) (17:00～19:00)
全日空ホテルオアシスタワー5階孔雀

評 議 員 会：平成19年9月29日(土) (8:50～9:20)
大分県労働福祉会館ソレイユ6階つばき

総 会：平成19年9月29日(土) (13:00～13:20)
大分県労働福祉会館ソレイユ7階カトレア

編集委員会：平成19年9月29日(土) (13:20～14:00)
大分県労働福祉会館ソレイユ6階つばき

交通案内

大分県労働福祉会館ソレイユ

〒870-0035 大分市中央町4丁目2番5号

TEL：097-533-1121



(駐車場に限りがあります。近接のOASISひろば21の駐車場、もしくは周辺駐車場をご利用下さい)

交通アクセス

- JR 大分駅より徒歩 10分
- 九州自動車道・大分 IC から車で約 7分
- 大分空港→ホーパークラフト 25分 → 車で約 7分
- 大分空港→特急バスで大分駅下車 約 60分

第57回日本体質医学会総会 事務局

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1

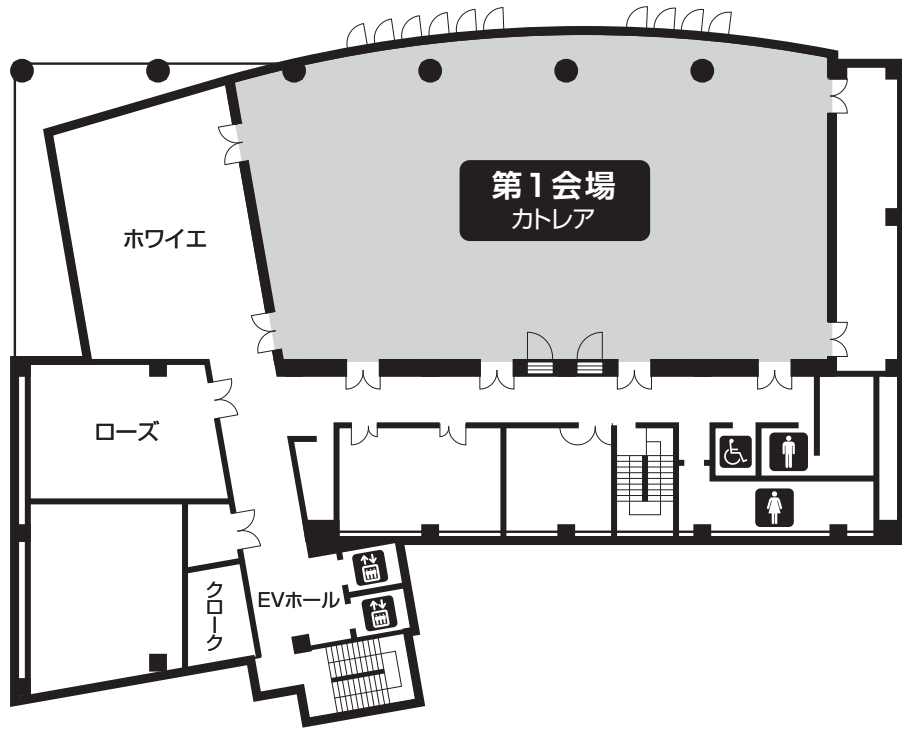
大分大学医学部 生体分子構造機能制御講座(第一内科)内

TEL：097-586-5793 FAX：097-549-4480

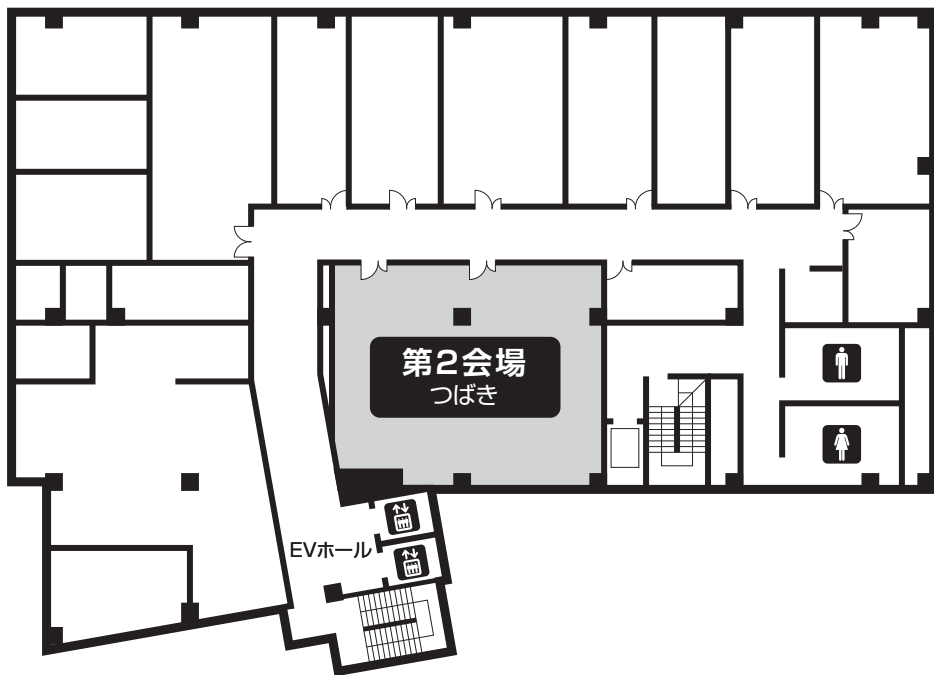
E-mail：taisitu@med.oita-u.ac.jp

会場案内

7F



6F



日程 9月29日 土

第1会場 〈7F カトレア〉		第2会場 〈6F つばき〉
9:00		8:50~9:20 評議員会
9:30~	開会の辞	
9:40~10:00	会長講演	9:40~10:00 会長講演 肥満症治療の展望 吉松 博信 先生
10:00~11:00	特別講演 1 胃潰瘍・胃がん ~体質VS感染症~ 藤岡 利生 先生	
11:00~12:00	特別講演 2 体質医学からみた骨粗鬆症 高柳 涼一 先生	
12:00	12:10~12:50 ランチョンセミナー	12:10~12:50 ランチョンセミナー 糖尿病の合併症抑制を 目指した治療戦略 小林 正 先生
13:00	13:00~13:20 総会	
13:30~14:10	教育講演 1 血管新生調節と疾患 佐藤 靖史 先生	13:20~14:00 編集委員会
14:10~14:50	教育講演 2 メタボリックシンドロームに おけるアディポサイトカイン —肝病変と寿命への役割— 山田研太郎 先生	
15:00	シンポジウム 1 体質医学からみた血管病 ~メタボリックシンドローム の視点から~	
15:00~	シンポジウム1-1 循環器の立場から(基礎) 島袋 充生 先生	
15:40~	シンポジウム1-2 循環器の立場から(臨床) 原政 英 先生	
16:20~	シンポジウム1-3 代謝内分泌の立場から(基礎) 西川 武志 先生	
17:00~	シンポジウム1-4 代謝内分泌の立場から(臨床) 井口登興志 先生	
17:40~17:55	質疑応答	
18:00	18:00~ イブニングセミナー 糖尿病・メタボリックシンドロームの体質 解明の進歩とテーラーメイド医療の展望 門脇 孝 先生	
19:00	19:00~ 懇親会	

9月30日 日

第1会場 〈7F カトレア〉		第2会場 〈6F つばき〉
9:00	9:00~9:40 教育講演 3 (次期会長講演) 体質医学とフリーラジカル 次期会長 吉川 敏一 先生	9:00~ 一般演題1
9:40~10:20	教育講演 4 体質医学からみた血管病 野出 孝一 先生	9:45~ 一般演題2
	シンポジウム 2 体質医学からみたメタボリック シンドロームへのアプローチ	
10:30~	シンポジウム2-1 食事療法 大部 正代 先生	
11:00~	シンポジウム2-2 運動療法 田中 広暁 先生	
11:30~	シンポジウム2-3 行動療法 加隈 哲也 先生	
12:00~	シンポジウム2-4 福岡“ミニドックシステム”に学ぶ 三村 和郎 先生	
12:30~12:45	質疑応答	
12:45~	閉会の辞	
13:00		

第57回日本体質医学会総会

会 長：大分大学医学部生体分子構造機能制御講座（第一内科）教授 吉松 博信
日 時：平成19年9月29日（土）、30日（日）
会 場：大分県労働福祉会館ソレイユ
〒870-0035 大分市中央町4丁目2番5号 TEL 097-533-1121

プログラム

9月29日（土） 第1会場：7F カトリア

9:30～ 開会の辞

9:40～10:00 会長講演 座長：もりの木クリニック 名誉院長 三村 悟郎
「肥満症治療の展望」
吉松 博信 大分大学医学部生体分子構造機能制御講座 教授

10:00～11:00 特別講演1 座長：大分大学医学部生体分子構造機能制御講座 教授 吉松 博信
「胃潰瘍・胃がん —体質 VS 感染症—」
藤岡 利生 大分大学感染分子病態制御講座 総合診療部 教授

11:00～12:00 特別講演2 座長：千葉大学大学院医学研究院細胞治療学 教授 齋藤 康
「体質医学からみた骨粗鬆症」
高柳 涼一 九州大学大学院医学研究院病態制御内科学 教授

12:10～12:50 ランチョンセミナー 共催：ノボ・ノルディスクファーマ
座長：和歌山県立医科大学 学長 南條輝志男
「糖尿病の合併症抑制を目指した治療戦略」
小林 正 富山大学附属病院 院長

13:00～13:20 総会

13:30～14:10 教育講演1 座長：琉球大学医学部 第二内科 教授 高須 信行

「血管新生調節と疾患」

佐藤 靖史 東北大学医学部加齢医学研究所
腫瘍制御研究部門 腫瘍循環研究分野 教授

14:10～14:50 教育講演2 座長：共立女子大学家政学部 臨床栄養学 教授 井上 修二

「メタボリックシンドロームにおける
アディポサイトカイン —肝病変と寿命への役割—」

山田研太郎 久留米大学医学部内分泌代謝内科 教授

15:00～ シンポジウム1

「体質医学からみた血管病
～メタボリックシンドロームの視点から～」

座長：大分大学医学部循環病態制御講座 教授 犀川 哲典
熊本大学大学院医学薬学研究部 代謝内科学 教授 荒木 栄一

15:00～ 1-1 循環器の立場から(基礎)
島袋 充生 琉球大学医学部第二内科

15:40～ 1-2 循環器の立場から(臨床)
原 政英 大分大学医学部循環病態制御講座

16:20～ 1-3 代謝内分泌の立場から(基礎)
西川 武志 熊本大学代謝内科学

17:00～ 1-4 代謝内分泌の立場から(臨床)
井口登興志 九州大学大学院医学研究院病態制御内科学

17:40～17:55 質疑応答

18:00～ イブニングセミナー 座長：グランドタワーメディカルコート 所長 伊藤千賀子

「糖尿病・メタボリックシンドロームの体質解明の進歩と
テーラーメイド医療の展望」

門脇 孝 東京大学医学部 生体防御腫瘍内科学講座 代謝・栄養病態学 教授

19:30～ 懇親会 全日空ホテル 5F 孔雀

9:00～9:40 教育講演3(次期会長講演) 座長：中村記念病院 内科部長 鬼原 彰

「体質医学とフリーラジカル」

吉川 敏一 京都府立医科大学大学院統合医科学
先端医療・ゲノム医学分野生体機能制御学 教授

9:40～10:20 教育講演4 座長：大分大学医学部生体分子構造機能制御講座 教授 吉松 博信

「体質医学からみた血管病」

野出 孝一 佐賀大学医学部循環器腎臓内科 教授

10:30～ シンポジウム2

「体質医学からみた
メタボリックシンドロームへのアプローチ」

座長：鹿児島県栄養士会 会長 立川 俱子
愛知学院大学心身科学部保健科学科 教授 佐藤 祐造

10:30～ 2-1 食事療法
大部 正代 国家公務員共済組合連合会浜の町病院 栄養課課長

11:00～ 2-2 運動療法
田中 宏暁 福岡大学スポーツ科学部 教授

11:30～ 2-3 行動療法
加隈 哲也 大分大学医学部生体分子構造機能制御講座

12:00～ 2-4 福岡“ミニドックシステム”に学ぶ
三村 和郎 福岡市医師会成人病センター 副院長

12:30～12:45 質疑応答

12:50 閉会の辞

一般演題1 9:00～9:45

座長：回生会 堤病院 院長 山口 康平

1 体重測定の影響および測定頻度は HbA1c 値に影響を及ぼす

○高橋 庸子¹⁾、甲斐 清美¹⁾、千葉 政一²⁾、三ツ木健二¹⁾、伊奈 啓輔²⁾、吉松 博信²⁾

1) 医療法人財団天心堂へつぎ診療所、2) 大分大学医学部生態分子構造機能制御講座

2 糖尿病患者を対象とした短期および長期栄養指導介入に伴う血糖コントロール改善効果

○榊田 典治¹⁾、高野 優¹⁾、小川 れい¹⁾、地内 智子¹⁾、中尾 紗綾¹⁾、前田 博之¹⁾、猪原 淑子²⁾、荒木 栄一³⁾

1) 熊本県立大学環境共生学部 食・健康環境学専攻、2) 熊本大学医学部附属病院栄養科、3) 熊本大学医学薬学研究部代謝内科分野

3 内臓脂肪面積の減少に健診は有用か

○藤川 るみ、大倉 京子、大橋 紀彦、伊藤千賀子

Grand Tower Medical Court

4 当院における継続栄養指導の経験

○西 奈緒子¹⁾、櫻本 里恵¹⁾、江口 周子¹⁾、楠木 弥生¹⁾、熊谷なほみ¹⁾、千葉 政一²⁾、中村 徹郎¹⁾、糸井 仁¹⁾、山中 邦稔^{1,2)}、但馬 大介²⁾、久保 文孝¹⁾、衛藤 孝¹⁾、江口雄一郎¹⁾、吉松 博信²⁾

1) 中津第一病院、2) 大分大学医学部第一内科

5 体重日内変動を指標とした食事栄養指導の有用性

○百留 恭子¹⁾、石川美千子¹⁾、千葉 政一²⁾、姜 正広¹⁾、吉松 博信²⁾

1) 特定医療法人明徳会佐藤第一病院、2) 大分大学医学部第一内科

6 脳と心臓における血管障害の予防と認知症

○堀江 良一¹⁾、斉藤和郁葉²⁾

1) 島根大学医学部医学科病理学講座、2) 出雲市民病院精神神経科

7 抗 TSH 受容体抗体陰性バセドウ病眼症の発症から約1年後に甲状腺機能亢進症を発症した2症例

○小野 恵子^{1,2)}、中村 行宏³⁾、池間 宏介³⁾、松本 光希³⁾、西 潤子⁴⁾、宮尾 昌幸⁴⁾、藤山 重俊⁵⁾、宮村 信博¹⁾、荒木 栄一¹⁾

1) 熊本大学大学院医学薬学研究部・代謝内科学、2) NTT 西日本九州病院・代謝内分泌内科、3) 同院・眼科、4) 同院・放射線科、5) 同院・内科

8 糖尿病患者の体質改善への取り組み ー生活習慣や健康意識に関する一般市民との比較検討ー

○川村 雅夫¹⁾、井藤 幸恵¹⁾、中村 友紀¹⁾、山岡 博之²⁾、中谷 宗幹²⁾、小河 健一²⁾、古田 浩人²⁾、畑中 一浩¹⁾、西 理宏¹⁾、佐々木秀行²⁾、三家登喜夫¹⁾、南條輝志男²⁾

1) 和歌山県立医科大学附属病院病態栄養治療部、2) 和歌山県立医科大学内科学第一講座

9 ヒト褐色脂肪組織の画像診断学的評価とその機能的意義

○千葉 政一¹⁾、島田 達生²⁾、高木 雅広³⁾、金子憲一郎³⁾、足立 育子³⁾、和田 知益³⁾、姜 正広⁴⁾、佐藤 仁一⁴⁾、正木 孝幸¹⁾、葛城 功¹⁾、加隈 哲也¹⁾、浜口 和之²⁾、吉松 博信¹⁾

1) 大分大学医学部第一内科、2) 大分大学医学部看護学科、3) 上人病院メディカルイメージングセンター、4) 佐藤第一病院

10 日本人2型糖尿病患者における TCF7L2 遺伝子多型の検討

○古田 浩人、土井 拓哉、島田 健、古川 安志、松野 正平、楠山 晃子、西 理宏、佐々木秀行、南條輝志男

和歌山県立医科大学第一内科

講 演 要 旨

座長：三村 悟郎 もりの木クリニック 名誉院長

肥満症治療の展望

吉松 博信 大分大学医学部 生体分子構造機能制御講座・第一内科 教授

肥満症患者の食行動の問題点は、過食や間食といった実際の食事摂取の場面だけでなく、それ以外のところにも存在する。ヒトの食行動の流れを考えると、食物の存在、環境要因など認知性調節が関与する食事前の時期、実際の食事時期、代謝産物や内臓感覚を情報源として代謝性調節によって満腹感が形成される食事終了時期がある。肥満症患者ではそれぞれの時期に対応した調節系の異常が認められる。「スーパーマーケットで美味しそうな食物を見たら、つい買いすぎた」という肥満症患者の訴えは、治療すべき問題点が実際の食行動以前に存在することを教えてくれる。すなわち認知性調節に関与する高次脳機能からのアプローチが必要である。食行動を開始すれば摂取カロリー量、栄養バランスなど食事内容自体が問題となるし、早食いなどの食べ方の問題も出て来る。ここには視床下部機能からのアプローチが対応している。そして食後には、摂取エネルギーはどのように消費されるか、余剰エネルギーはどのように脂肪沈着へ向かうかという問題が生じ、ここでは末梢エネルギー代謝からのアプローチが必要である。このように肥満症治療にあたっては、食事や運動によるエネルギーバランスだけを問題にするのではなく、食行動調節系の空間的アンバランスの是正、さらにその時間的役割分担にも注目したアプローチが必要になってくる。

座長：吉松 博信 大分大学医学部生体分子構造機能制御講座教授

胃潰瘍・胃がん —体質 VS 感染症—

藤岡 利生 大分大学医学部感染分子病態制御講座 総合診療部・消化器内科 教授

講演要旨

- 胃潰瘍・胃がんの疾患概念の変化
- 体質と感染(ヘリコバクター・ピロリ感染)
- 胃潰瘍治療法の変遷
- 東アジア型ヘリコバクタ・ピロリ感染(日本とアジアでの取り組み)
- 除菌治療と胃がん予防

従来、胃潰瘍は全身疾患としての「潰瘍症」の一部分症であると考えられ、再発を運命づけられた疾患であると考えられていた。この病態の背景としては、遺伝的背景の大きい「体質」という要素が重要視されてきた。しかし、1982年に、西オーストラリアの Robin Warren 博士と Barry Marshall 博士によるヘリコバクター・ピロリの最初の発見以来、全世界で多くの研究が行われ、消化性潰瘍の原因としては本菌の感染が最も重要な原因であることが明らかになり、現在では本菌の除菌治療が消化性潰瘍の基本的な治療法と位置づけられている。この研究成果により、両博士は2005年度のノーベル医学・生理学賞を受賞した。

一方、本菌感染による組織学的胃炎の持続は萎縮性胃炎、腸上皮化生を経て胃癌の発生へと至る一連の連鎖が知られており、除菌治療により組織学的胃炎を治療することが胃癌の予防に繋がる可能性がある。とくに、日本・韓国・中国を中心とする東アジア3ヶ国のヘリコバクター・ピロリは東アジア型の Cag A (cytotoxin - associated gene A) を有しており、胃癌発症のリスクが高いと考えられている。

本講演では、アジア地区における本学の取り組みについても言及したい。

.....
.....
.....
.....

教育講演

●第1日 第1会場 13:30~14:10

座長：高須 信行 琉球大学医学部第二内科教授

教育講演 1 血管新生調節と疾患

演者：佐藤 靖史 東北大学医学部加齢医学研究所腫瘍制御研究部門
腫瘍循環研究分野教授

●第1日 第1会場 14:10~14:50

座長：井上 修二 共立女子大学家政学部臨床栄養学 教授

教育講演 2 メタボリックシンドロームにおけるアディポサイトカイン ー肝病変と寿命への役割ー

演者：山田研太郎 久留米大学医学部内分泌代謝内科教授

●第2日 第1会場 9:00~9:40

座長：鬼原 彰 中村記念病院内科部長

教育講演 3 体質医学とフリーラジカル

演者：吉川 敏一 京都府立医科大学大学院統合医科学
先端医療・ゲノム医学分野生体機能制御学教授

●第2日 第1会場 9:40~10:20

座長：吉松 博信 大分大学医学部生体分子構造機能制御講座教授

教育講演 4 体質医学からみた血管病

演者：野出 孝一 佐賀大学医学部循環器腎臓内科教授

座長：高須 信行 琉球大学医学部第二内科教授

血管新生調節と疾患

佐藤 靖史 東北大学加齢医学研究所、腫瘍循環研究分野 教授

血管新生は、胎児形成に必須の生理的現象であるが、成熟個体では限られた場合でしか起こらない。一方、病的な血管新生は、癌や糖尿病網膜症を初めとしてさまざまな疾患と深く関わっており、その効果的な制御法の臨床導入が期待されている。血管新生は促進因子と抑制因子の局所バランスによって制御されており、促進系についての機能解析は進んでいるが、抑制系については不明な点が数多く残されている。

我々は、血管内皮細胞が産生し、自らに作用して血管新生を抑制する新規血管新生抑制因子を単離・同定して vasohibin-1 と命名し、またそのホモログである vasohibin-2 の存在を明らかにした。さらに、これら vasohibin family 分子の機能を知るために遺伝子改変マウスを用いた動物実験を実施し、vasohibin-1 は主に血管新生が停止する部位の血管内皮細胞に発現して血管新生の終息と新生血管の安定化に寄与すること、これに対して vasohibin-2 は主に血管新生周辺の間質に浸潤する単核球に発現して vasohibin-1 の作用と拮抗して血管新生を促進することを明らかにしている。学会では、ヒトの各種病態における vasohibin family の解析結果を紹介し、血管新生調節と体質との関連についても言及する。

座長：井上 修二 共立女子大学家政学部臨床栄養学 教授

メタボリックシンドロームにおけるアディポサイトカイン —肝病変と寿命への役割—

山田研太郎 久留米大学医学部内分泌代謝内科 教授

メタボリックシンドロームはリスクファクターの重積により動脈硬化を促進するだけでなく、消化器、腎、呼吸器等の様々な疾患の原因となる。特に、肥満2型糖尿病では軽度の肝機能異常であっても NASH を発症している可能性に注意を要する。一般にメタボリックシンドロームに伴う代謝異常は男性で著しい。血中アディポネクチン濃度は男性肥満者の方が低値であり、酸化ストレスマーカーは男性の方が高い。アディポネクチンの長期作用をトランスジェニックマウスを用いて検討したところ、高アディポネクチン血症マウスでは酸化ストレスの抑制と寿命の延長が認められた。高脂肪・高蔗糖摂取による体重増加と寿命短縮も、トランスジェニックマウスでは有意に抑制された。また、アディポネクチン遺伝子導入は、NASH を自然発症する nSREBP-1c トランスジェニックマウスの肝病変に対して顕著な抑制作用を示した。このモデル動物の NASH 発症は TNF- α を欠損させることによっても予防された。遺伝素因および環境因子によるアディポサイトカインの異常が、メタボリックシンドロームの多彩な病態の成立に関与しており、その制御が病態の改善に重要と考えられる。

シンポジウム

●第1日 第1会場 15:00～

座長：犀川 哲典 大分大学医学部循環病態制御講座 教授
荒木 栄一 熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学教授

シンポジウム 1

体質医学からみた血管病 ～メタボリックシンドロームの視点から～

●第2日 第1会場 10:30～

座長：立川 俱子 鹿児島県栄養士会 会長
佐藤 祐造 愛知学院大学心身科学部保健科学科教授

シンポジウム 2

体質医学からみたメタボリックシンドロームへのアプローチ

循環器の立場から（臨床）

急性心筋梗塞患者において冠危険因子が発症年齢と冠動脈病変形態に与える影響

原 政英¹⁾、犀川 哲典²⁾、大家 辰彦³⁾、高倉 健⁴⁾、
岩尾 哲⁵⁾、重松 作治⁶⁾、吉松 博信¹⁾

1) 大分大学生体分子構造機能制御講座内科学第一、2) 大分大学循環病態制御講座、
3) 大分医療センター循環器科、4) 健康保険南海病院循環器科、
5) 大分赤十字病院循環器科、6) 別府医療センター循環器科

【目的】 高齢者急性心筋梗塞（AMI）死亡数は増加している。非高齢者の虚血性心臓突然死も社会問題であるが、AMI 発症年齢の規定因子は明らかでない。本検討は冠危険因子が AMI 発症年齢および冠動脈病変形態に及ぼす影響を知ることがを目的とした。

【方法】 対象は AMI339 例（男性 237 例、女性 102 例、平均 69 ± 12 歳）。初発年齢により非高齢群（65 歳未満；NO 群）113 例、前期高齢群（65-74 歳；YO 群）104 例、後期高齢群（75 歳以上；OO 群）122 例に分類し、危険因子と初発年齢・責任冠動脈閉塞形態・罹患病変枝数の関連性を後ろ向きに検討した。閉塞形態は造影所見により狭窄型（S 型）、非狭窄型（NS 型）に分類した。

【結果】 ① 高 TC 血症：NO vs.OO；54% vs.29% ($p=0.0001$) ② 高 TG 血症：NO vs.OO；64% vs.9% ($p<0.001$) ③ 低 HDL-C 血症：NO vs.OO；26% vs.10% ($p=0.002$) ④ 喫煙：NO vs.OO；64% vs.25% ($p<0.0001$) ⑤ 耐糖能異常：NO vs.OO；74% vs. 54% ($p=0.002$) ⑥ メタボリックシンドローム（MS）：NO vs.OO；40% vs.10% ($p<0.0001$) ⑦ NS 型閉塞：NO vs.OO；55% vs.27% ($p<0.0001$) ⑧ 1 枝病変：NO vs.OO；69% vs.35% ($p<0.0001$)

【結論】 多変量解析より非高齢発症予測因子は MS・喫煙・HOMA-IR 3.5 以上・男性・高 TC 血症であった。さらに、MS・男性・非高齢・1 枝病変患者においては NS 型閉塞が高率に認められた。当該患者においては冠動脈硬化進展の前に AMI を発症する可能性が高く、脆弱プラーク検索と積極的な危険因子治療によるプラークの質的改善が望まれる。

一般演題

9月30日(日) 第2会場 6F つばき

一般演題 **1** 9:00～9:45

座長：山口 康平 回生会 堤病院 院長

- 1** 体重測定の実行および測定頻度はHbA1c値に影響を及ぼす
高橋 庸子 医療法人財団天心堂へつぎ診療所
- 2** 糖尿病患者を対象とした短期および長期栄養指導介入に伴う
血糖コントロール改善効果
榎田 典治 熊本県立大学環境共生学部 食・健康環境学専攻
- 3** 内臓脂肪面積の減少に健診は有用か
藤川 るみ Grand Tower Medical Court
- 4** 当院における継続栄養指導の経験
西 奈緒子 中津第一病院
- 5** 体重日内変動を指標とした食事栄養指導の有用性
百留 恭子 特定医療法人明徳会佐藤第一病院

一般演題 **2** 9:45～10:30

座長：浜口 和之 大分大学医学部看護科地域・老年看護学 教授

- 6** 脳と心臓における血管障害の予防と認知症
堀江 良一 島根大学医学部医学科病理学講座
- 7** 抗TSH受容体抗体陰性バセドウ病眼症の発症から
約1年後に甲状腺機能亢進症を発症した2症例
小野 恵子 熊本大学大学院医学薬学研究部・代謝内科学
- 8** 糖尿病患者の体質改善への取り組み
—生活習慣や健康意識に関する一般市民との比較検討—
川村 雅夫 和歌山県立医科大学附属病院病態栄養治療部
- 9** ヒト褐色脂肪組織の画像診断学的評価とその機能的意義
千葉 政一 大分大学医学部第一内科
- 10** 日本人2型糖尿病患者におけるTCF7L2遺伝子多型の検討
古田 浩人 和歌山県立医科大学第一内科

1

体重測定の影響および測定頻度は HbA1c 値に影響を及ぼす

- 1) 医療法人財団天心堂へつぎ診療所
- 2) 大分大学医学部生態分子構造機能制御講座

○高橋庸子¹⁾、甲斐清美¹⁾、千葉政一²⁾、三ツ木健二¹⁾、伊奈啓輔²⁾、吉松博信²⁾

【目的】 糖尿病患者の HbA1c の改善に体重測定習慣の有無が寄与しているか検討した。

【方法と対象】 糖尿病外来通院患者 336 名 (男性 205 / 女性 131) の体重測定習慣と頻度について調査し、体重、BMI、HbA1c、収縮期および拡張期血圧との関係を解析した。

【結果】 体重測定習慣のない患者が 63% で平均 HbA1c 7.3% に対し、体重測定習慣を有する患者が 37% で、平均 HbA1c 6.9% と有意差を認めた。体重と BMI において体重測定習慣のない患者の平均体重 60.9kg、BMI 24.1 に対し、有する患者の平均体重は 68.4kg、BMI 26.1 であった。収縮期および拡張期血圧は有意差を認めなかった。体重測定の頻度は、2 回 / 1 日以上体重測定を患者の HbA1c が最小値を示した。

【考察】 以上の解析から、2 回 / 1 日以上体重測定習慣は HbA1c の改善に寄与することが示唆された。一方で体重測定を有する患者では、有意に体重、BMI が高いことから、患者の治療動悸が体重測定習慣の有無に関与することが示唆された。

2

糖尿病患者を対象とした短期および長期栄養指導介入に伴う血糖コントロール改善効果

- 1) 熊本県立大学環境共生学部 食・健康環境学専攻、
- 2) 熊本大学医学部附属病院栄養科、
- 3) 熊本大学医学薬学研究部代謝内科分野

○榊田典治¹⁾、高野 優¹⁾、小川れい¹⁾、地内智子¹⁾、中尾紗綾¹⁾、前田博之¹⁾、猪原淑子²⁾、荒木栄一³⁾

【目的】 糖尿病患者の栄養指導による血糖コントロール改善効果を検討すべく HbA1c を指標として短期と長期での追跡調査を行った。

【方法】 熊本大学通院糖尿病患者での短期介入対象者 43 名、植木町立病院長期対象者 151 名 (男性 94 名、女性 57 名、平均年齢 61 ± 11 歳、HbA1c 8.5 ± 2.0%)。長期の栄養指導群 51 名と長期未指導群 100 名の HbA1c 値の経時的変化を 30 ヶ月まで追跡調査した。長期指導群は 1) 入院歴有無、2) 男女別での比較検討も行った。

【結果】 短期追跡では 3 ~ 5 ヶ月までは非指導群に比し HbA1c 低下を認めた。30 ヶ月に亘る長期検討での指導群は未指導に比し有意な低下を認めた。外来での指導は、入院指導の低下に比し有意であった。男女の性差はなかった。

【考察】 短期的には半年から、長期的にみれば未指導群は、15 ヶ月後から血糖コントロールに漸減的悪化を認めた。

内臓脂肪面積の減少に健診は有用か

Grand Tower Medical Court

○藤川るみ、大倉京子、大橋紀彦、伊藤千賀子

【目的】 健診時の簡単な指導で内臓脂肪面積が減少するか否かについて検討した。

【対象・方法】 対象は当所の健診受診者のうち低線量CTで脂肪面積測定を経年観察を行った60名(平均年齢45.8歳)である。空腹時の血清脂質、血糖値、インスリン値を測定し、総、高分子量アディポネクチンはELISA法で測定した。診察時に食事、運動の指導を行った。方法は予め質問表に記載してもらい、その中で不適切と思われる内容を中心に生活習慣の是正を行った。平均値で初回と経年後の諸臨床検査成績を比較し、有意差はPaired t-testを用いた。

【結果】 経年後の体重、腹囲、皮下脂肪面積、血糖値、インスリン値に差は認められなかったが、内臓脂肪面積は103.3cm²から89.0cm²へ有意に減少、収縮期血圧127.8mmHgから124.7mmHg、拡張期血圧80.4mmHgから77.5mmHgと有意に低下、TGは204.6mg/dlから124.7mg/dlに有意に低下、総アディポネクチンは5.0μg/mlから5.6μg/mlに有意に増加していた。

【結語】 健診時の適切な動機付けで内臓脂肪面積を減少させることは可能である。

当院における継続栄養指導の経験

1)中津第一病院、2)大分大学医学部第一内科

○西奈緒子¹⁾、櫻本里恵¹⁾、江口周子¹⁾、楠木弥生¹⁾、熊谷なほみ¹⁾、千葉政一²⁾、中村徹郎¹⁾、糸井 仁¹⁾、山中邦稔^{1,2)}、但馬大介²⁾、久保文孝¹⁾、衛藤 孝¹⁾、江口雄一郎¹⁾、吉松博信²⁾

【目的】 糖尿病、高脂血症および高血圧症などの生活習慣病の有効な治療方法として食事療法が広く知られている。当院でも生活習慣病患者に対する治療のひとつとして管理栄養士による外来食事栄養指導を行っている。一方、生活習慣病治療成績について、当院での外来食事栄養指導が有効か否かは不明であった。そこで今回、当院での外来栄養指導の有効性を検証するため、外来食事栄養指導の有無、単回/継続指導および指導方法の差と、生活習慣病患者の体重、BMI、収縮期/拡張期血圧、HbA1c等の臨床経過の連関について比較検討した。

【方法】 対象者は当院内科外来を受療した生活習慣病患者266名、観察期間は平成18年5月1日から平成19年4月30日までとした。群分けは食事栄養指導の状況によって行い、指導が一回で終了した群(単回指導群)、連続して複数回指導した群(継続指導群)、指導していない群(未指導群)の3群とした。食事栄養指導では食品成分表およびグラフ化体重日記を用いた。生活習慣病患者の臨床経過は、体重、BMI、収縮期/拡張期血圧、HbA1cの経時的変化を用いた。解析はFisher直接確率検定、2元配置反復分散分析およびFreidman検定を行い、有意水準0.05未満で有意と判定した。

【結果】 平成18年5月1日から平成19年4月30日までの間の外来指導件数は143件(単回22件、継続121件)であった。被指導者数は57名(単回指導26名、継続指導31名、未指導209名)、指導内容(食品成分表のみ/グラフ化体重日記を併用)による差異は、単回指導群では(16名/10

第57回日本体質医学会総会協賛

(五十音順／平成19年9月5日現在)

阿部循環器クリニック	アステラス製薬株式会社
いしだ内科	エーザイ株式会社
伊藤医院	大塚製薬株式会社
宇佐胃腸病院	小野薬品工業株式会社
臼杵循環器内科	三和化学研究所
大分共立病院	第一三共株式会社
大久保病院	大日本住友製薬株式会社
大分岡病院	武田薬品工業株式会社
おの英伸クリニック	バイエル薬品株式会社
織部消化器科	万有製薬株式会社
協和病院 (大分県勤労者医療生活協同組合)	ファイザー株式会社
清瀬病院	三菱ウェルファーマ株式会社
国東循環器クリニック	持田製薬株式会社
健康保険南海病院	
古城循環器クリニック	
酒井病院	
佐藤第一病院	
サンライズ酒井病院	
白川病院	
仁医会病院	
杉村記念病院	
曾根病院	
塚川第一病院	
医療法人財団 天心堂	
中津第一病院	
永富脳神経外科病院	
中村病院	
西田病院	
西の台医院	
姫野内科医院	
藤島病院	
藤野循環器内科医院	
別府中央病院	
堀田医院	
松尾内科病院	
村橋病院	
森内科医院	
吉村内科循環器科クリニック	

ご協賛いただきまして誠にありがとうございました。

第57回 日本体質医学会総会

会 長：吉松 博信

事務局：〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1
大分大学医学部生体分子構造機能制御講座(第一内科)内
TEL 097-586-5793 / FAX 097-549-4480
E-mail : taisitu@med.oita-u.ac.jp

印 刷：Next COMPANY **Secand** 株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL : 096-382-7793 FAX : 096-386-2025